



2019年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2019年1月11日

上場会社名 株式会社プレナス

上場取引所 東

コード番号 9945

URL <https://www.plenus.co.jp/>

代表者（役職名）代表取締役社長 社長執行役員（氏名）塩井 辰男

問合せ先責任者（役職名）経営管理室長（氏名）丸山 俊也 TEL 03(6892)0304

四半期報告書提出予定日 2019年1月11日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無：有

四半期決算説明会開催の有無：無

（百万円未満切捨て）

1. 2019年2月期第3四半期の連結業績（2018年3月1日～2018年11月30日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年2月期第3四半期	115,609	5.6	△147	—	483	△89.6	△416	—
2018年2月期第3四半期	109,478	3.3	4,436	△16.9	4,659	△17.5	2,474	△16.2

（注）包括利益 2019年2月期第3四半期 △480百万円（－％） 2018年2月期第3四半期 2,559百万円（△12.5％）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年2月期第3四半期	△10.88	—
2018年2月期第3四半期	64.63	64.44

（注）2019年2月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年2月期第3四半期	92,323	63,227	67.7
2018年2月期	91,499	66,098	71.6

（参考）自己資本 2019年2月期第3四半期 62,506百万円 2018年2月期 65,499百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年2月期	—	30.00	—	30.00	60.00
2019年2月期	—	30.00	—	—	—
2019年2月期(予想)	—	—	—	30.00	60.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2019年2月期の連結業績予想（2018年3月1日～2019年2月28日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	153,900	5.6	△600	—	200	△96.2	△1,500	—	△39.18

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 一社 (社名)、除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
 (注)詳細は、添付資料P. 8 「(3)四半期連結財務諸表に関する注記事項 (四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2019年2月期3Q	44,392,680株	2018年2月期	44,392,680株
② 期末自己株式数	2019年2月期3Q	6,103,709株	2018年2月期	6,103,702株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2019年2月期3Q	38,288,972株	2018年2月期3Q	38,287,800株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

※ 四半期決算補足説明資料の入手方法について

- ・四半期決算補足説明資料は、2019年1月11日(金)に当社ホームページのIR情報に掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P. 2
(1) 連結経営成績に関する説明	P. 2
(2) 連結財政状態に関する説明	P. 3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P. 3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	P. 4
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	P. 6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	P. 6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	P. 7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	P. 8
(継続企業の前提に関する注記)	P. 8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P. 8
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)	P. 8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	P. 8
(セグメント情報等)	P. 9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用・所得環境が改善する中、緩やかな回復基調が続きました。当外食産業におきましては、原材料価格や物流費の上昇、人手不足に伴う人件費の上昇等、引き続き厳しい事業環境が続きました。

このような状況の中、当社グループにおきましては、お客様の満足度向上に努めるべく、商品力、店舗販売力の強化を目指すと共に、中長期での安定的な成長を見据え、さらなる事業基盤の強化に注力しました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、1,156億9百万円(前年同期比5.6%増)、営業損失は1億47百万円(前年同期は、営業利益44億36百万円)、経常利益は4億83百万円(前年同期比89.6%減)、親会社株主に帰属する四半期純損失は4億16百万円(前年同期は、親会社株主に帰属する四半期純利益24億74百万円)となりました。売上高につきましては、既存店売上高が前年同期実績を上回ったこと、臺灣富禮納思股份有限公司などの新規連結や、新規出店により店舗数が増加したことが要因で前年同期実績を上回りました。利益面につきましては、主に商品力強化・人材確保・育成への投資、仕入コストの上昇により、前年同期実績を下回りました。

[国内における店舗展開の状況]

	前連結会計 年度末	新規出店	退店	当第3四半期 連結累計期間末	改装・移転
ほっともっと	2,723店	52店	14店	2,761店	75店
やよい軒	351店	23店	—	374店	1店
MKレストラン	33店	2店	—	35店	2店
合計	3,107店	77店	14店	3,170店	78店

[海外における店舗展開の状況]

	展開エリア	前連結会計 年度末	新規出店	退店	当第3四半期 連結累計期間末
ほっともっと	中国	2店	—	—	2店
	韓国	12店	3店	1店	14店
	オーストラリア	1店	—	—	1店
やよい軒	タイ	167店	16店	2店	181店
	シンガポール	8店	—	—	8店
	オーストラリア	4店	1店	1店	4店
	台湾	12店	4店	—	16店
	米国	3店	—	1店	2店
	フィリピン	2店	—	—	2店
	マレーシア	1店	—	—	1店
合計	—	212店	24店	5店	231店

セグメントの業績は次のとおりであります。

【ほっともっと事業】

新ブランドスローガン「やっぱり、お弁当屋さんのおべんとうはおいしい。」を策定し、品数とバランスにこだわった幕の内弁当シリーズを発売するなど定番商品の強化を図り、より価値のある商品の提供と、TVCMを中心とした新ブランドキャンペーンを展開しました。また、お客様の満足度向上のため、店舗の販売力を強化するべく、積極的に人材確保・育成を行いました。

以上の結果、売上高は、827億56百万円(前年同期比3.8%増)、営業損失6億38百万円(前年同期は、営業利益36億94百万円)となりました。売上高につきましては、既存店売上高の増加(前年同期比1.1%増)と、新規出店により店舗数が増加したことが要因で、前年同期実績を上回りました。利益面につきましては、主に商品力強化・人材確保・育成への投資、仕入コストの上昇により、前年同期実績を下回りました。

【やよい軒事業】

素材や手作り感にこだわった定食メニューをお手頃な価格で提供することを基本に、「かきフライ定食」や鍋定食の発売を行うなど、ターゲットをより明確にした商品の開発や販売促進活動を展開いたしました。

以上の結果、売上高は232億29百万円（前年同期比5.5%増）、営業利益は9億65百万円（前年同期比15.4%減）となりました。売上高につきましては、既存店売上高の増加（前年同期比0.2%増）と、新規出店により店舗数が増加したことが要因で、前年同期実績を上回りました。営業利益につきましては、主に仕入コストの上昇により、前年同期実績を下回りました。

【MKレストラン事業】

豊富な具材と個性豊かなスープが選べるしゃぶしゃぶに、季節限定のスープや特選具材を取り揃えるなど、商品力の強化に努めました。また、広島県に初進出し、店舗数は35店となりました。

以上の結果、売上高は25億85百万円（前年同期比2.3%増）、営業損失は17百万円（前年同期は、営業利益85百万円）となりました。売上高につきましては、既存店売上高の減少（前年同期比0.6%減）があったものの、新規出店により店舗数が増加したことが要因で、前年同期実績を上回りました。利益面につきましては、主に原価率の上昇、人件費の増加により、前年同期実績を下回りました。

【海外事業】

第1四半期連結会計期間から、新たに臺灣富禮納思股份有限公司（台湾）、BayPOS, Inc.（米国）を連結対象としております。当第3四半期連結累計期間におきましては、事業規模拡大を目指して成長基盤強化に努めました。

以上の結果、売上高は28億81百万円（前年同期比103.6%増）、営業損失は3億72百万円（前年同期は、営業損失4億21百万円）となりました。

【その他】

宮島醤油フレーバー㈱は調味料・加工食品のOEM（相手先ブランド名製造）を主な事業としております。既存顧客への新商品提案を積極的に行うと共に、新規顧客獲得のための営業活動を実施しました。また、当社グループ店舗で使用する調味料等の開発も行っております。

以上の結果、売上高は41億57百万円（前年同期比9.2%増）となりました。利益面につきましては、のれん代の償却などがあり、結果としては営業損失45百万円（前年同期は、営業損失18百万円）となりました。

（2）連結財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ8億24百万円増加し、923億23百万円となりました。内訳は、流動資産47億80百万円の減少、固定資産56億4百万円の増加であります。流動資産の減少は、現金及び預金64億96百万円の減少、商品及び製品13億63百万円の増加などによるものです。また、固定資産の増加は、有形固定資産48億68百万円の増加、投資その他の資産4億16百万円の増加などによるものです。

負債は、前連結会計年度末に比べ36億94百万円増加し、290億95百万円となりました。内訳は、流動負債20億13百万円の増加、固定負債16億80百万円の増加であります。流動負債の増加は、支払手形及び買掛金21億43百万円の増加などによるものです。固定負債の増加は、長期借入金13億34百万円の増加、資産除去債務4億19百万円の増加などによるものです。

純資産は、前連結会計年度末に比べ28億70百万円減少し、632億27百万円となりました。内訳は、利益剰余金28億66百万円の減少であります。利益剰余金の減少は、配当支払による22億97百万円の減少などによるものです。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年2月期の業績予想につきましては、2018年10月5日に公表しました数値から修正しております。詳細は、本日開示しました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2018年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	14,372	7,876
受取手形及び売掛金	2,786	2,744
商品及び製品	5,263	6,626
原材料及び貯蔵品	62	167
その他	2,907	3,271
貸倒引当金	△135	△210
流動資産合計	25,256	20,475
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	32,347	37,958
その他(純額)	15,942	15,199
有形固定資産合計	48,289	53,158
無形固定資産		
のれん	1,337	1,141
その他	1,051	1,568
無形固定資産合計	2,389	2,710
投資その他の資産		
その他	15,670	16,044
貸倒引当金	△61	△34
投資損失引当金	△45	△31
投資その他の資産合計	15,563	15,979
固定資産合計	66,243	71,848
資産合計	91,499	92,323
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,097	8,240
短期借入金	53	123
未払法人税等	762	150
賞与引当金	328	63
役員賞与引当金	3	—
ポイント引当金	114	153
株主優待引当金	157	61
資産除去債務	161	7
その他	9,071	9,963
流動負債合計	16,751	18,765
固定負債		
長期借入金	98	1,432
退職給付に係る負債	55	77
資産除去債務	5,215	5,634
その他	3,281	3,186
固定負債合計	8,649	10,330
負債合計	25,401	29,095

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2018年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2018年11月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,461	3,461
資本剰余金	4,828	4,777
利益剰余金	68,913	66,046
自己株式	△11,897	△11,897
株主資本合計	65,305	62,388
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	54	34
為替換算調整勘定	138	83
その他の包括利益累計額合計	193	118
新株予約権	237	266
非支配株主持分	361	454
純資産合計	66,098	63,227
負債純資産合計	91,499	92,323

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年3月1日 至 2017年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年3月1日 至 2018年11月30日)
売上高	109,478	115,609
売上原価	50,515	56,868
売上総利益	58,962	58,740
販売費及び一般管理費	54,526	58,888
営業利益又は営業損失(△)	4,436	△147
営業外収益		
受取利息	34	25
受取配当金	2	3
固定資産賃貸料	103	102
受取補償金	33	42
持分法による投資利益	—	55
受取保険金	86	246
その他	125	215
営業外収益合計	386	690
営業外費用		
固定資産賃貸費用	16	6
持分法による投資損失	66	—
為替差損	7	—
貸倒引当金繰入額	10	4
その他	64	49
営業外費用合計	164	59
経常利益	4,659	483
特別利益		
固定資産売却益	2	36
投資有価証券売却益	6	—
特別利益合計	9	36
特別損失		
固定資産処分損	168	315
減損損失	136	73
その他	4	90
特別損失合計	308	480
税金等調整前四半期純利益	4,359	39
法人税等	1,863	438
四半期純利益又は四半期純損失(△)	2,495	△399
非支配株主に帰属する四半期純利益	21	17
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	2,474	△416

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年3月1日 至 2017年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年3月1日 至 2018年11月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	2,495	△399
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	23	△20
為替換算調整勘定	33	△55
持分法適用会社に対する持分相当額	6	△5
その他の包括利益合計	63	△80
四半期包括利益	2,559	△480
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,538	△498
非支配株主に係る四半期包括利益	20	18

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第3四半期連結累計期間において、主要な関係会社の異動は、以下のとおりであります。

当第3四半期連結会計期間において、威海東源食品有限公司の持分を取得したことに伴い、持分法適用の範囲に含めております。

なお、第1四半期連結会計期間において、臺灣富禮納思股份有限公司(台湾)及びBayPOS, Inc.(米国)は、重要性が増したため、連結の範囲に含めております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2017年3月1日至2017年11月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)1	調整額 (注)2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注)3
	ほっと もっと 事業	やよい軒 事業	MK レストラン 事業	海外事業	計			
売上高								
(1) 外部顧客に対する売上高 (その他営業収入を含む)	79,719	22,009	2,526	1,415	105,671	3,806	—	109,478
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	343	43	—	—	387	928	△1,316	—
計	80,063	22,053	2,526	1,415	106,058	4,735	△1,316	109,478
セグメント利益又は損失(△)	3,694	1,141	85	△421	4,500	△18	△45	4,436

(注)1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、連結子会社1社分であります。

2 セグメント利益又は損失の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自2018年3月1日至2018年11月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)1	調整額 (注)2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注)3
	ほっと もっと 事業	やよい軒 事業	MK レストラン 事業	海外事業	計			
売上高								
(1) 外部顧客に対する売上高 (その他営業収入を含む)	82,756	23,229	2,585	2,881	111,452	4,157	—	115,609
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	443	58	—	—	502	1,165	△1,667	—
計	83,200	23,287	2,585	2,881	111,954	5,322	△1,667	115,609
セグメント利益又は損失(△)	△638	965	△17	△372	△63	△45	△39	△147

(注)1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、連結子会社1社分であります。

2 セグメント利益又は損失の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。